

明善寺：本堂

明善寺は、1748 年の創建以来、荻町の仏教の中心的な聖地となっている浄土真宗のお寺である。浄土真宗はこの地域で最も影響力のある宗派で、13 世紀に宗祖親鸞（1173-1263）の弟子といわれる遊行僧・嘉念坊善俊によって伝えられたといわれている。明善寺の特徴的な茅葺き屋根の本堂は 1827 年に建てられたもので、白漆喰の土壁や木彫りの装飾など格式を感じさせる建築様式と、庄川流域の合掌造りの農家をイメージした伝統的な茅葺き屋根を組み合わせたスタイルで、20 年の歳月をかけて建設された。

堂内は浄土真宗寺院の特徴である華麗な装飾が施されている。中央の祭壇には、金色に輝く、浄土真宗の中心的存在である阿弥陀如来の像が安置されている。祭壇の扉の上には金色の欄間があり、獅子や天使のような「天女」、縁起の良い花や植物の彫刻が施されている。欄間の下にある襖には、日本と中国の伝統絵画の手法と西洋式リアリズムを融合しようとした京都の四条派の画家、垣内右隣（1825-1891）の鶴と松の絵が描かれている。入口の反対側の壁には、親鸞と嘉念坊善俊の肖像が掛けられており、善俊は布教活動の拠点として鳩谷集落に建てた道場の前で描かれている。